

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
サトウ ミノリ 佐藤 みのり	女	非公表	助教	人間文化学部人間文化学科 人間文化研究科臨床心理学専攻
取得学位称号	人文科学博士	専門分野	発達精神病理学, 臨床心理学	
学 歴	2003年	4月	私立 駿台甲府高等学校 普通科	入学
	2006年	3月	私立 駿台甲府高等学校 普通科	卒業
	2006年	4月	山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科	入学
	2010年	3月	山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科	卒業
	2010年	4月	山梨英和大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻	入学
	2012年	3月	山梨英和大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻	修了(臨床心理学修士)
	2015年	4月	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻 心理学領域	入学
	2021年	3月	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻 心理学領域	修了(人文科学博士)
実 務 経 験	2012年	6月	医療法人社団 心癒会 しのだの森ホスピタル 臨床心理課	(2020年7月まで)
	2016年	4月	お茶の水女子大学 ティーチング・アシスタント	(2017年3月まで)
	2017年	4月	山梨英和大学 非常勤講師	(2021年3月まで)
	2021年	4月	山梨英和大学 助教	(現在に至る)
	2021年	4月	株式会社アライブネット 就労移行支援事業所マナビト カウンセラー	(現在 に至る)
受 賞 歴	2018年		山梨県・大村智人材育成基金事業 平成30年度山梨県若手研究者奨励事業 費補助金 山梨県若手研究者奨励賞	
	2020年		令和2年度 公益財団法人発達科学研究教育センター 発達科学研究教育奨 励賞	
	2022年		日本子ども学会 第18回学術集会 優秀ポスター発表賞	
	2023年		日本私立学校振興・共済事業団 2023年度若手研究者奨励金	
所 属 学 会	2010年	4月	日本心理臨床学会	正会員 (現在に至る)
	2015年	4月	日本パーソナリティ心理学会	正会員 (現在に至る)
	2017年	4月	日本臨床心理士会	正会員(現在に至る)
	2019年	4月	日本教育心理学会	正会員(現在に至る)
	2020年	4月	日本臨床発達心理士会	正会員(現在に至る)
	2022年	4月	日本子ども学会	正会員(現在に至る)
	2022年	4月	日本職業リハビリテーション学会	正会員(現在に至る)
特 免 資 許 許 格 等 ・ ・	2014年	4月	臨床心理士	(登録番号:28938)
	2019年	2月	公認心理師	(登録番号:第924号)
	2020年	4月	臨床発達心理士	(登録番号:第04588号)
e-mail	sato.minori@yamanashi-eiwa.ac.jp			

## 目 次

### ○教育業績

- 教育理念, 方針, 方法
- 教育能力
  - 教育方法実践例
  - 作成した教科書, 教材等
  - 教育方法や実践に関する発表, 講演等
- 担当授業科目
- 代表的なシラバス
- 教育改善活動
- 教育能力に対する評価

### ○研究業績

- 研究の特徴
- 研究経歴
- 研究実績
  - 著書
  - 学術論文
  - その他の研究活動
- 競争的資金採択課題
- 学会等発表, 役員参加
- 共同研究・受託研究の実績
- 大学院生指導
- 研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

- 学内委員会・作業部会等活動実績
- アドバイザー活動実績
- 後進育成活動実績
- 社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績, 研究業績, サービス活動業績)の統合による成果と目標

- 専門的成果
- 専門的目標

### ○添付資料

- 完全リスト(研究実績, 競争的資金採択課題, 学会等発表・役員参加, 共同研究・受託研究の実績,  
学内委員会・作業部会活動実績)
- サンプル(教育能力, 代表的なシラバス, 教育改善活動, 大学院生指導, アドバイザー活動実績,  
後進育成活動実績, 社会貢献活動)
- 評価結果(教育能力に対する評価, 研究能力に対する評価)
- 専門的成果のエビデンス

## 教育業績

教育理念, 方針, 方法	<p>学生が机上の学びのみを得るのではなく、大学卒業後に社会において求められる働きを適切に全うできるような技術をも習得できるよう関わることを教育理念としている。それぞれの学生のアクティブ・ラーニングの姿勢を引き出す授業の展開や、各学生との双方向のやり取りにより、学生が自分なりの学びの意思を持ち、それに磨きをかけ、さらに自身の取り組みの成果を他者と社会に向けて説得力のある方法で発信することを指導することに努めてゆく。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>1. Google Classroomを活用した授業のサポート 授業にはGoogle Classroomを活用し、受講学生に対して予習教材と課題の配布、授業に関する連絡、質問の受け付けならびに回答、課題の指示ならびに受け付けなどを行っている。これにより授業時間内に資料の配布や課題の指示などに割かねばならない時間を削減することが可能となった。また、Google Classroom上で講師と学生とが自由にやり取りできる環境を整えたことにより、学生が学習をすすめるうえで講師に質問がある場合に、学生が必要だと思うすぐその時に講師がその求めに応じることが可能となった。</p> <p>2. 学生の授業に対する積極性と学習の動機づけを高める工夫 毎回の授業開始時にその回の授業内容に関する複数の問いを提示し、授業の最後で、学生にそれらの問いへの自分なりの考えをリアクションペーパーに記述することを求めている。リアクションペーパーは、コメントをつけて学生に返却し、次回の授業の冒頭でピックアップした学生からの意見を紹介するようにしている。子の工夫により、第一に、各学生が講義内容をいかに理解し考察したのかを把握することが可能となっている。また、第二に、学生がともに学ぶ他学生の意見に触れることが可能となっている。これらは、受講生全体の授業に対する積極的な取り組みの姿勢を引き出し、彼らの学習動機づけを高めることに寄与している。</p> <p>(2)作成した教科書, 教材等</p> <p>1. 講義用教材(対面授業用) 講義を要約・解説した自作パワーポイントスライド、レジュメをテキストの補助教材として使用している。また、実習や演習科目では、自作のワークシートに沿ってロールプレイやディスカッションから得た学びを記入させている。</p> <p>2. 講義用教材(オンライン授業用) コロナ禍におけるオンライン授業ならびに反転授業用の講義用教材には、対面授業で用いる講義用教材のスライドに音声や動画を挿入し、対面授業と同様の教授ができるよう、教材に工夫を加えている。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表, 講演等 特になし</p>
担当授業科目	<p>学部:心理演習ⅡB, 心理実習ⅡB, 感情・人格心理学Ⅰ 大学院:臨床心理実習ⅠB, 臨床心理実習ⅠC, 臨床心理実習Ⅱ, 臨床心理査定演習</p>
代表的シラバス	<p>「心理演習Ⅱ」は、公認心理師取得・心理系大学院進学・心理支援職を目指す学生を対象とする。授業は小人数(1クラス最大12名まで)の演習形式で、95分を2時限連続で行う。授業の目的は、心理支援に必要な具体的知識と心理アセスメント技能を習得することである。授業では、心理アセスメントに必要とされる基本的姿勢、各種心理検査の概略、施行法についての講義を行い、その後に具体的演習を実施する。さらに、心理に関する支援を要する者の心理状態を踏まえた全体像の把握、心理検査の適切なフィードバック方法、検査所見の作成方法について指導する。本授業では、受講生が要支援者のニーズを踏まえた上で最適な支援計画を立てられるようになることを目指し、公認心理師として心理支援を実践するために必要な専門的知識と技能に関する教授を行う。</p>
教育改善活動	<p>授業においては、リアクションペーパーならびにGoogle Classroom上でのコメント機能を活用し、学生からの質問、疑問、意見などを積極的に受け付けている。これにより学生たちの授業内容に対する理解度を確保するとともに、授業のなかで補足説明を実施したり、より具体的かつ実地的な説明を行ったりすることで、学生の理解をさらに深めるための取り組みをすすめている。また、オフィス・アワーを活用し、学生からの求めに応じて個別に対応することで、授業のような集団の場面においては学生が発しにくい「わからなさ」や学習における「困難さ」を受け止め、教育的支援をすすめている。</p>
対教する能力価に	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>2021年度から2022年度に山梨英和大学において担当した授業について、受講学生による授業評価アンケートでは、9割以上の学生が、満足できる授業内容であったと回答した。また、自由記述による回答で、学生が質問しやすい雰囲気づくりをしていたことや学生に復習のポイントと方法を具体的に示していたことについて肯定的な評価を得た。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 該当なし</p>

## 研究業績

研究の特徴	<p>子どもにとって慢性的に逆境を提供してしまう諸要因と、子どもの発達と精神的健康について研究を行っている。この要因のひとつである、何らかの障害や困難を抱える家族メンバーのケアを日常的に負担している「ヤングケアラー」とよばれる子どもたちに関し、特に研究を蓄積している。うつ病や発達障害などの精神疾患を有する親を持つヤングケアラーについて、彼らが過重なケアに従事し精神的健康を損なうメカニズムの解明を目指し、発達精神病理学的研究をすすめている。また、子どもがヤングケアラーとなるリスクの高い家族環境・家庭環境への早期介入ならびに効果的支援の展開を目指し、発達障害を有する女性の子育て困難感や重症児のきょうだいを持つ子どもへのケアに関する研究も行っている。</p>
研究経歴	<p>2015年～現在</p> <p>①うつ病の親を持つ子どものケア提供行動ならびに精神的健康に関する研究</p> <p>②発達障害を有する女性の子育て困難感に関する研究</p> <p>③医療的依存度の高い重症児のきょうだいのケア提供行動と精神的健康に関する研究</p>
研究実績	<p>(1)著書</p> <p>佐藤みのり(2022). 家族のケアを担う子どもたち:ヤングケアラー支援の展開のために. 山梨の子ども白書編集委員会(編)『2022 山梨の子ども白書』. 第4章 子どもと福祉, 120-121.</p> <p>(2)</p> <p>【学術論文】</p> <p>佐藤みのり(2012). 青年期における孤独感の臨床心理学的研究. 山梨英和大学心理臨床センター紀要, 7, 63-73. (査読あり)</p> <p>佐藤みのり・原田悠子(2018). ストレスケア病棟における看護スタッフのストレスをめぐる体験. 精神科看護, 45(9), 50-58. (査読あり)</p> <p>佐藤みのり(2019). うつ病の親をもつ子どもがヤングケアラー化し精神疾患を発症する場合—複線径路・等至性モデルによるプロセスの検討—. 心理臨床学研究, 36(6), 646-656. (査読あり)</p> <p>佐藤みのり(2021). 思春期における親子の抑うつに関連—親の抑うつに対する子どもの認知に着目して—. お茶の水女子大学人間文化創成科学論叢, 23, 91-99. (査読あり)</p> <p>齊藤彩・佐藤みのり・坂田侑奈(2021). 親の注意欠如・多動症的行動特性と親子関係との関連—精神科外来成人うつ病患者を対象とした検討—. お茶の水女子大学人文科学研究, 17, 83-95. (査読あり)</p>
研究実績	<p>佐藤みのり(2021). 抑うつの世代間伝達—親の抑うつに対する子どもの認知およびケア行動に注目して—. お茶の水女子大学大学院博士學位論文博甲第385号. (査読あり)</p> <p>佐藤みのり(2021). うつ病患者とその子どもの親子関係ならびに精神的健康に関する調査. 発達研究, 35, 99-104. (査読なし)</p> <p>佐藤みのり(2021). うつ病患者とその子どもの親子関係と精神的健康との関連:ヤングケアリングに注目して. 発達研究, 36, 31-42. (査読なし)</p> <p>Aya Saito・Satoko Matsumoto・Minoru Sato・Yukina Sakata・Hideyuki Haraguchi(2022). Relationship between parental autistic traits and parenting difficulties in a Japanese community sample. Research in Developmental Disabilities, 124(5): 104210. (査読あり)</p> <p>佐藤みのり(2022). 大学院修了後の心理臨床活動に資する臨床心理査定教育システムの検討:山梨英和大学大学院における知能検査の教授に着目して. 山梨英和大学心理臨床センター紀要, 17, 2-14. (査読あり)</p> <p>森彩乃・佐藤みのり(2022). 解離体験を呈する青年2事例のロールシャッハ反応に関する一考察:Ⅶカードの反応への着目. お茶の水女子大学人文科学研究, 19, 173-184. (査読あり)</p> <p>【報告書】</p> <p>佐藤みのり(2019). 親のうつ病が子どものケア提供行動と精神的健康に及ぼす影響. 平成30年度山梨県・大村智人材育成基金若手研究者奨励事業成果報告書. (山梨県ホームページ上に掲載)</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表, 学術誌編集, 学術論文査読等)</p> <p>特になし</p>

競争的資金採択課題	<p>平成30年度山梨県・大村智人材育成基金 若手研究者奨励事業費補助金 人文・社会科学 研究 私科2387号 「親のうつ病が子どものケア提供行動と精神的健康に及ぼす影響」(研究代表者)</p> <p>令和2年度 公益財団法人発達科学研究教育センター 発達科学研究教育奨励賞 「うつ病患者とその子どもの親子関係ならびに精神的健康に関する調査」(研究代表者)</p> <p>2023年度 日本私立学校振興・共済事業団 2023年度若手研究者奨励金 「首都圏における大学生ケアラーの実態把握」(研究代表者)</p>
学会等発表・役員参加	<p>【学会発表】</p> <p>2012年 9月 佐藤みのり・小宮山志保・濱口真実・本田彩乃. 効果的な心理臨床教育・訓練システムに関する研究(7): 初学者からみた中断事例とスーパーヴィジョンの質的検討. 日本心理臨床学会第31回大会口頭発表.</p> <p>2016年 6月 Minori Sato. Investigation into Influence of Rejection Sensitivity of Parents with Depression on Children's Psychosocial Maladjustments. The 31st International Congress of Psychology口頭発表.</p> <p>2016年 9月 佐藤みのり. 抑うつ障害の親を持つヤングケアラーの実態: 対人関係における拒絶に対する過敏性に注目して. 日本パーソナリティ心理学会第25回大会ポスター発表.</p> <p>2019年 8月 佐藤みのり・齊藤彩・坂田侑奈. うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(1): 子どものケア提供行動に着目して. 日本パーソナリティ心理学会第28回大会ポスター発表.</p> <p>2019年 8月 齊藤彩・佐藤みのり・坂田侑奈. うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(2): 注意欠如・多動傾向に着目して. 日本パーソナリティ心理学会第28回大会ポスター発表.</p> <p>2019年 8月 坂田侑奈・齊藤彩・佐藤みのり. うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(3): 自閉症スペクトラム傾向に着目して. 日本パーソナリティ心理学会第28回大会ポスター発表.</p>
学会等発表・役員参加	<p>2019年 9月 佐藤みのり. うつ病の親を持つ子どもがヤングケアラー化し精神疾患を発症する場合. 日本教育心理学会第61回総会ポスター発表.</p> <p>2020年 9月 齊藤彩・坂田侑奈・佐藤みのり・原口英之・松本聡子. 親の自閉症的行動特性と養育ニーズとの関連: 日本語版Parenting Needs Questionnaireを用いた検討. 日本パーソナリティ心理学会第29回大会ポスター発表.</p> <p>2020年 9月 齊藤彩・佐藤みのり・坂田侑奈. 親子の注意欠如・多動症的行動特性と養育ニーズに関する検討. 日本教育心理学会第62回総会ポスター発表.</p> <p>2021年 8月 佐藤みのり・齊藤彩. 親のうつ病と子どもの精神的健康との関連: 親の抑うつに対する子どもの認知およびケア行動に着目して. 日本教育心理学会第63回総会ポスター発表.</p> <p>2021年 8月 齊藤彩・松本聡子・佐藤みのり・坂田侑奈・原口英之. 親の自閉症的行動特性と養育における困難との関連. 日本教育心理学会第63回総会ポスター発表.</p> <p>2021年 9月 佐藤みのり・竹山康代・齊藤彩. 効果的な就労移行・定着支援システムに関する研究(1): マナビトにおける支援の現状と課題. 日本パーソナリティ心理学会第30回大会ポスター発表.</p> <p>2021年 9月 齊藤彩・佐藤みのり. 自閉スペクトラム症をもつ成人女性の子育てに関する質的検討: 母親の語りからみる困難感と支援ニーズ. 日本パーソナリティ心理学会第30回大会ポスター発表.</p> <p>2022年 8月 佐藤みのり. うつ病の親に対するヤングケアリングはいかにして生じるか: ソーシャルサポート受領に関する親の認知に着目して. 日本教育心理学会第64回総会ポスター発表.</p> <p>2022年 8月 齊藤彩・佐藤みのり. 小学生および親の発達障害特性と養育態度との関連. 日本教育心理学会 第64回総会ポスター発表.</p> <p>2022年 10月 佐藤みのり・齊藤彩. 医療的ケア児のきょうだいにおけるヤングケアリングの実情: 小児看護スタッフへのインタビュー調査から. 日本子ども学会学術集会第18回子ども学会議ポスター発表.</p> <p>2022年 12月 竹山康代・佐藤みのり・齊藤彩. 効果的な就労移行・就労定着支援システムに関する研究(2): コロナ禍での支援展開の現状と課題. 日本パーソナリティ心理学会第31回大会ポスター発表.</p> <p>2022年 12月 佐藤みのり・齊藤彩・竹山康代. 効果的な就労移行・就労定着支援システムに関する研究(3): 生活面における就労準備性に着目して. 日本パーソナリティ心理学会第31回大会ポスター発表.</p> <p>2022年 12月 齊藤彩・佐藤みのり・竹山康代. 効果的な就労移行・就労定着支援システムに関する研究(4): パーソナリティ特性に着目して. 日本パーソナリティ心理学会第31回大会ポスター発表.</p>

受託共同研究の実績	【受託研究】 2021年～ 株式会社アライブネット 効果的な就労移行支援ならびに就労定着支援システムに関する研究
	【共同研究】 2021年～ 東京医科大学 精神医学分野(メンタルヘルス科) ヤングケアラーのメンタルヘルスに関する研究 (客員研究員)
大学院生指導	①ケースに対するスーパービジョンの実施 ②発達知能検査に関するスーパービジョンの実施 ③学外実習, 心理検査に関する授業における教授ならびに指導の実施
研究能力に対する評価	

### サービス活動業績

学内委員会等 作業部会等 活動実績	2021年 4月 山梨英和大学心理臨床センター紀要編集委員 (現在に至る)
	2021年 4月 ハラスメント防止委員(現在に至る)
	2021年 4月 不正防止委員会(現在に至る)
アドバイザー活動実績	2021年度、基礎ゼミナール I F・II Fを担当し、ゼミ運営ならびに個別面談の実施により新入学生の心理的サポートならびに教育的指導を実施している。
後進育成活動実績	公認心理師を目指す本学学部生ならびに臨床心理士を目指す本学大学院生に対し、自らの公認心理師・臨床心理士・臨床発達心理士としての心理臨床経験からの学びをもとに心理臨床に関する助言と指導を行い、後進の育成に取り組んでいる。

社会 貢 献 活 動	(1)講演会
	2021年9月 山梨県ヤングケアラー支援ネットワーク会議 基調講演「ヤングケアラー支援の必要性」
	2021年11月 山梨県愛育連合会 令和3年度ヤングケアラー研修会「子どもの気持ちに寄り添うってどういうこと？」
	2022年1月 山梨県ヤングケアラー支援オンラインセミナー「ヤングケアラーを知ろう！」
	2022年2月 山梨県地域包括・在宅介護支援センター協議会 職員研修会「ヤングケアラーへの支援と困難事例について考える」
	2022年6月 山梨県教育委員会後援 山梨県臨床心理士会 学校臨床心理士委員会主催第2回研修会「ヤングケアラー支援の取り組みのために ―研究・臨床における課題と展望―」
	2022年7月 都留市地域・教育フォーラム「ヤングケアラーの実際と地域における支援のポイント」
	2022年11月 山梨県教育委員会・山梨日日新聞社・山梨放送・テレビ山梨後援 教育のつどいYAMANASHI 子ども・若者、学校をみんなで考える分科会「家族のケアを担う子どもたち ―ヤングケアラー支援の展開のために―」
	(2)出前講座
	2021年3月 山梨県立身延高等学校「大学で学んでということ？」
2022年5月 山梨県立富士河口湖高等学校「心理学を学ぼう！ ―こころを科学するとは？―」	
2022年10月 山梨県立韮崎高等学校「こころの健康とは ―メンタルヘルスを考えよう―」	
(3)公開講座	
2022年6月 山梨英和大学メイプルカレッジ 山梨と世界のこれから「家族をケアする子どもたち ―ヤングケアラー支援を考える―」	
(4)学外審議会・委員会等	
2021年4月～2022年3月 山梨県ヤングケアラー支援ネットワーク会議 構成員	
2021年4月～ 山梨の子ども白書編集委員会	
(5)その他	
2022年10月 山梨日日新聞『時標』2022年10月2日付「ヤングケアラー 負担減らそう」	

## 成果と目標

専門的成果	<p>①これまで事例報告や質的検討が主であったヤングケアラー研究領域において、発生メカニズムに迫ろうとする量的研究が評価され、競争的助成金を獲得することができた。</p> <p>②うつ病の親に対する子どものケア提供行動と子どもの精神的健康との関連メカニズムを検討した研究が評価され、マスメディアにおけるヤングケアラーの特集において研究が紹介された。</p>
専門的目標	<p>①競争的助成金を獲得してすすめている研究について、成果を論文にまとめジャーナルに投稿する。</p> <p>②うつ病の予防・啓発、発達障害を有する親に対する子育て支援、家族のケアを担う人々のメンタルヘルスの保持増進の活動に積極的に取り組み、研究により得られた学術的知見を広く世の中に還元する。</p> <p>③臨床心理士・公認心理師・臨床発達心理士としての資質向上を目指し、心理アセスメントならびにケースに対する分析のスキルを高める。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------